私たちは たたかいを やめません

社会保険庁を不当解雇された仲間の職場復帰と名誉回復をめざしてたたかい続けます

厚労省は不当解雇を撤回せよ

年金機構は採用差別を中止せよ

安心してくらせる年金制度を

社会保険庁の解体・廃止から十年以上経過した今日まで、国民の中にある年金不信は晴れていません。これは年金不信の原因が、安心してくらすことのできない年金制度にあることを示しています。

社会保険庁の不当解雇をめぐる裁判闘争は終了しましたが、十年以上に及ぶこのたたかいの中で、分限処分の不当性や厚生労働大臣の解雇回避努力が不十分だった点、年金記録問題の責任は職員ではなく、歴史的な経過による組織的問題であることが明らかになりました。

しかし、厚労省は不当解雇の責任を認めようとせず、年金機構は社会保険庁時代に懲戒処分歴がある職員を一律不採用とする採用差別を続けています。これからも続くの闘いは困難を極めますが、全厚生闘争団は決してあきらめず、当事者と手を取りあって職場復帰と名誉回復に向けた闘いを続けていきます。みなさんの引き続くご支援をお願いするとともに、誰もが安心してくらせる年金制度の実現にむけ共にがんばりましょう。

全厚生闘争団

たたかい続ける当事者の声

北久保 和夫

「道理はわれらにある。正義は勝つ」と信じて頑張りましたが、「政治権力の壁」を打ち破るには、まだまだ頑張りは足らなかったと思います。

弁護士と支援いただいたみなさんの奮闘で、裁判はあと一歩のところまで行ったと思いますが、全員勝利とならなかったことは残念です。

「世論を味方にたたかう」ことを目標にこれからもたたかいます。

児島 文彦

愛媛では全国に先駆けて支援共闘会議を立ち上げてもらい、人事院の公平心理にも裁判にも毎回多くの方が傍聴に来ていただきました。裁判の結果には今でも納得できませんが、闘ってよかったと思っています。

愛媛の支援共闘会議は裁判闘争終了を機に解散しましたが、その闘いを引き継ぐために、「安心・信頼のできる年金の実現をめざす愛媛の会」を立ち上げることができました。この会を力にして、今後も頑張っていきたいと考えています。

みなさん、これからもよろしくお願いします。

川口 博之

誇りとやりがいをもって働いていた社会保険の職場を解雇され、十年以上が経過しました。この十年を振り返ると、失ったもの、新たに得られたもの、数えきれない物事がありますが、自分にとって本当に濃厚で充実していたものと思っています。

解雇だけでなく、年金という国民生活の命綱を民営化していいのかの是非を問う裁判闘争は、残念な結果に終わりました。多くの普通の国民が犠牲になる新自由主義を背景とした行政改革・規制改革により弱体化した公務・公共サービス、「効率」や儲けばかりを優先したことによるツケが、コロナ禍のいま問い直されていると思います。これまでの闘いの中で学んだ、一部の権力者だけでなく、みんなが生かされ、そして活かされる社会とは何かをこれからも自分の足元を見つめ問い直しながら、しっかりと生きていきたいと思います。

みなさん、本当にいままでのご支援ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。